海洋教育ネットワーク通信 ＮＯ.16　2017年10月26日

●10月10日（火）に、初声小学校１年生（３クラス）が、矢作海岸で磯観察を行いました。

『海博士になろう』の２回目ということで、テーマは「海のかくれんぼ」。子どもたちは、岩の下や、岩のすき間、砂の中などに隠れている生き物（カニ、アサリ、ヤドカリ、エビなど）を探し出します。そして、探し出した生き物は、すべて一つの大き目の潮だまりに集めます。

次に、その潮だまりを、タッチプールに見立てるというアイデアで、クラスごとに生き物を触っていきます。

最後に、児童は、生き物を見つけた場所に返しに行きました。アイデアにあふれた磯観察になりました。

●３日（火）、名向小学校の３年生が、観音崎自然博物館を見学しました。

博物館の山田学芸部長のスライドショーによる「三浦の海の生き物」の説明を受けた後、河野館長に「海藻おしばづくり」を指導していただきました。子どもたちは、「むずかしい」といいつつも、「おもしろかった」「またやりたい」と、十分満足した様子でした。貴重な体験、学習をさせていただきました。

●４日（水）には、剣崎小学校の５年生が観音崎自然博物館を見学し、山田学芸部長から、アマモについての講義を受けました。

●17日（火）に、読売新聞の記者が、旭小学校の海洋教育の取組を取材しに来ました。

当日、多種類の魚を持ってきてくれていた保護者は、「土曜参観で、子どもたちのすばらしい発表を見て、協力して良かったと思った」と話していました。

記者は、飼育係が水槽にエサを入れる場面を見たり、飼育委員にインタビューをしたりしていました。その後、１年生が取り組んだ海の生き物のちぎり絵や２年生の観察記録などを取材しました。２年生の子どもたちは、一生懸命、自分の観察記録について説明していました。

記者は、最後に、子どもたちの活動の様子や生き生きした表情に、「素晴らしい取組に心が和みました」という感想を漏らしていました。

（文責　事務局長　渋谷）

海洋教育についてのお問い合わせは、本研究所まで（046-854-9443）